

プログラマブルシェーダ2

Game Programming B #09

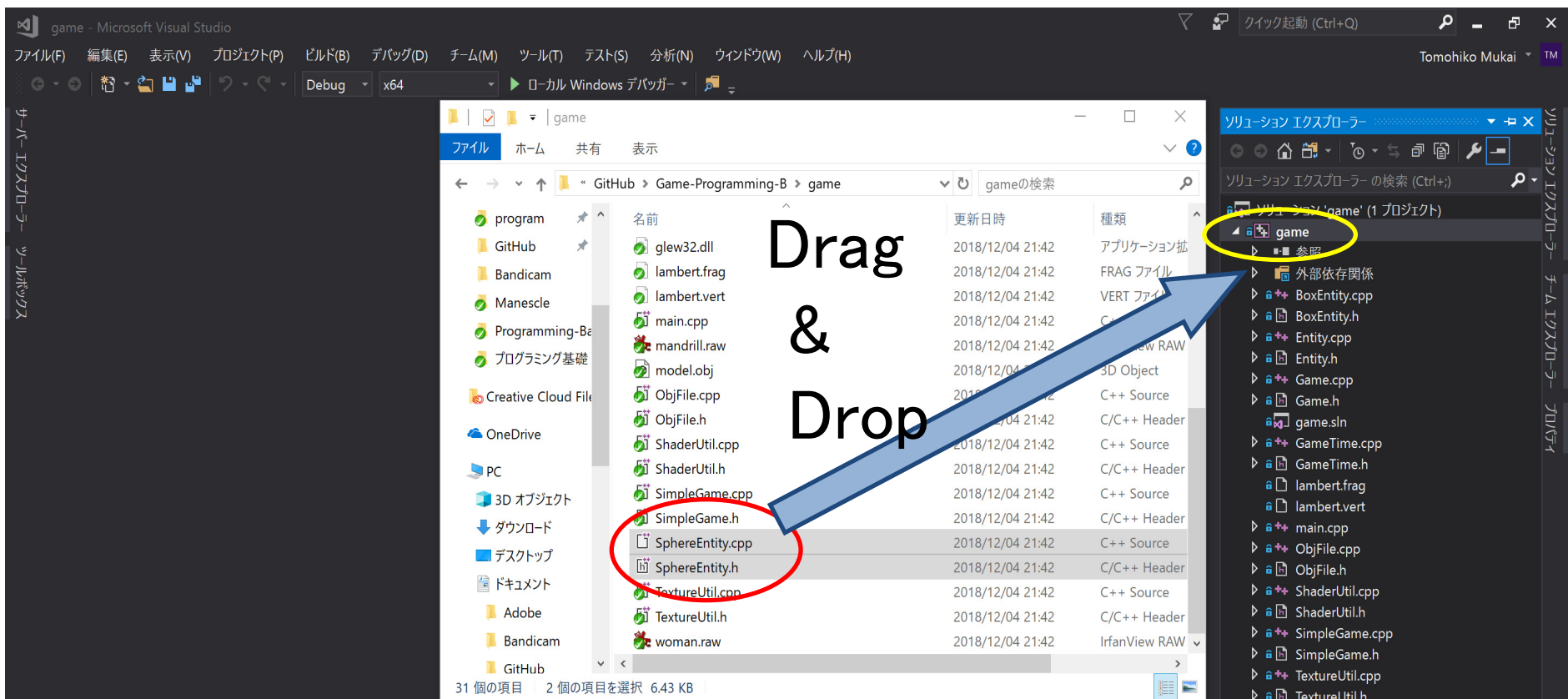
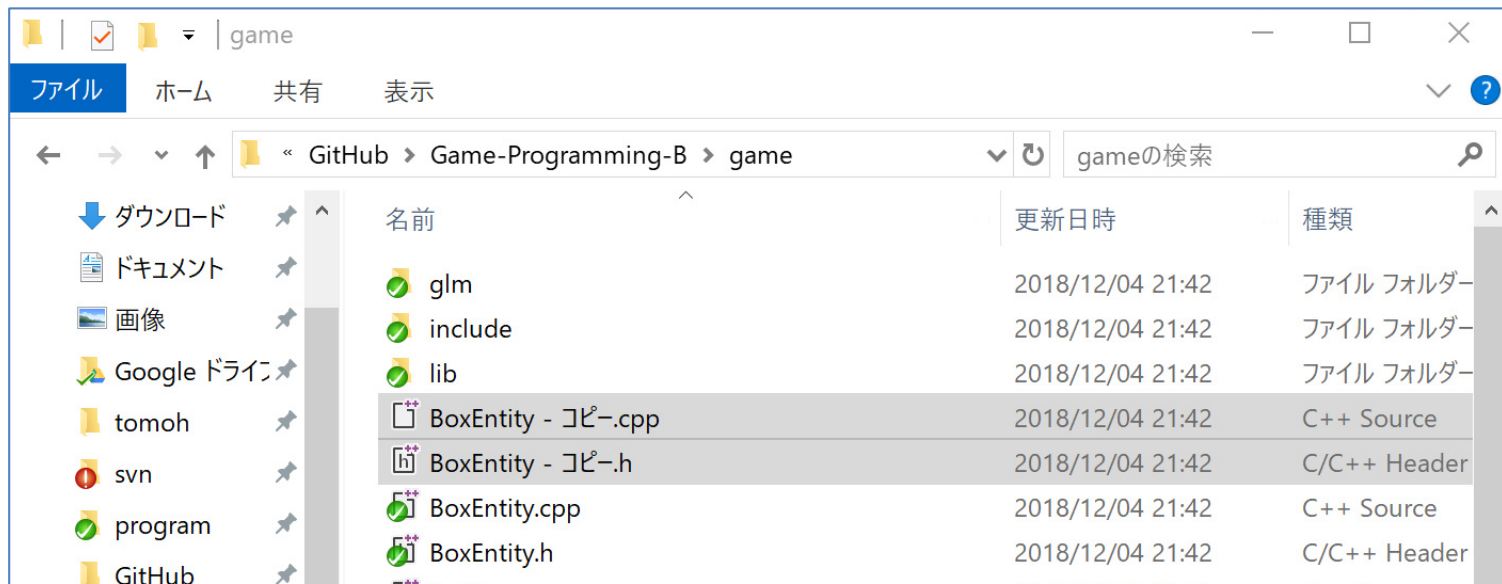
向井智彦

本日の演習: カスタムエンティティ制作

1. モデリング - 好みの形を作る
2. シェーディング - 好みの色を出す
 - 時間に応じて or イベントに応じて色を変える等も
3. エンティティクラス作成
 - 作ったモデルを読み込む
 - 作ったシェーダを読み込む
4. エンティティオブジェクト生成
5. ゲームクラスに登録して表示

作業手順1

1. BoxEntity.cpp&BoxEntity.h をコピー & リネーム
 - 例えば、SphereEntity.cpp と SphereEntity.h に
2. gameプロジェクトに追加
 - ファイルをVisual Studio にdrag&drop
3. SphereEntity.cpp と SphereEntity.h 内、
「BoxEntity」文字列を「SphereEntity」で置換



作業手順2

4. 表示する物体形状をモデリング
 - Game-Programming-B の wikiを参照
5. SphereEntity.cpp内、ロードするOBJファイル名を適切に変更
6. (シェーダーの変更が必要な場合は、
lambert.vertやlambert.fragをコピー&リネーム→内容を編集→SphereEntity.cpp内で適切に指定、という操作を行う)

game - Microsoft Visual Studio

クイック起動 (Ctrl+Q)

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P) ビルド(B) デバッグ(D) チーム(M) ツール(T) テスト(S) 分析(N) ウィンドウ(W) Tomohiko Mukai TM

ヘルプ(H)

Debug x64 ローカル Windows デバッガー

SphereEntity.cpp* X SphereEntity.h*

game SphereEntity Init()

BoxEntity X SphereEntity Aa Ab * 現在のドキュメント

```
1 #include "Game.h"
2 #include "SphereEntity.h"
3 #include "ShaderUtil.h"
4 #include "ObjFile.h"
5 #include "TextureUtil.h"
6
7 SphereEntity::SphereEntity()
8 {
9     numTriangles = 0;
10 }
11
12 SphereEntity::~~SphereEntity()
13 {
14 }
15
16 bool SphereEntity::Init()
17 {
18     std::vector<Vertex> vertex;
19     std::vector<uint32_t> modelIndex;
20     LoadObjModel(vertex, modelIndex, "./sphere.obj");
21     numTriangles = modelIndex.size() / 3;
22 }
```

121 % < 変更箇所なし | 作成者なし、変更箇所なし

エラー一覧 出力

準備完了 20 行 54 列 54 文字 BANDICAM

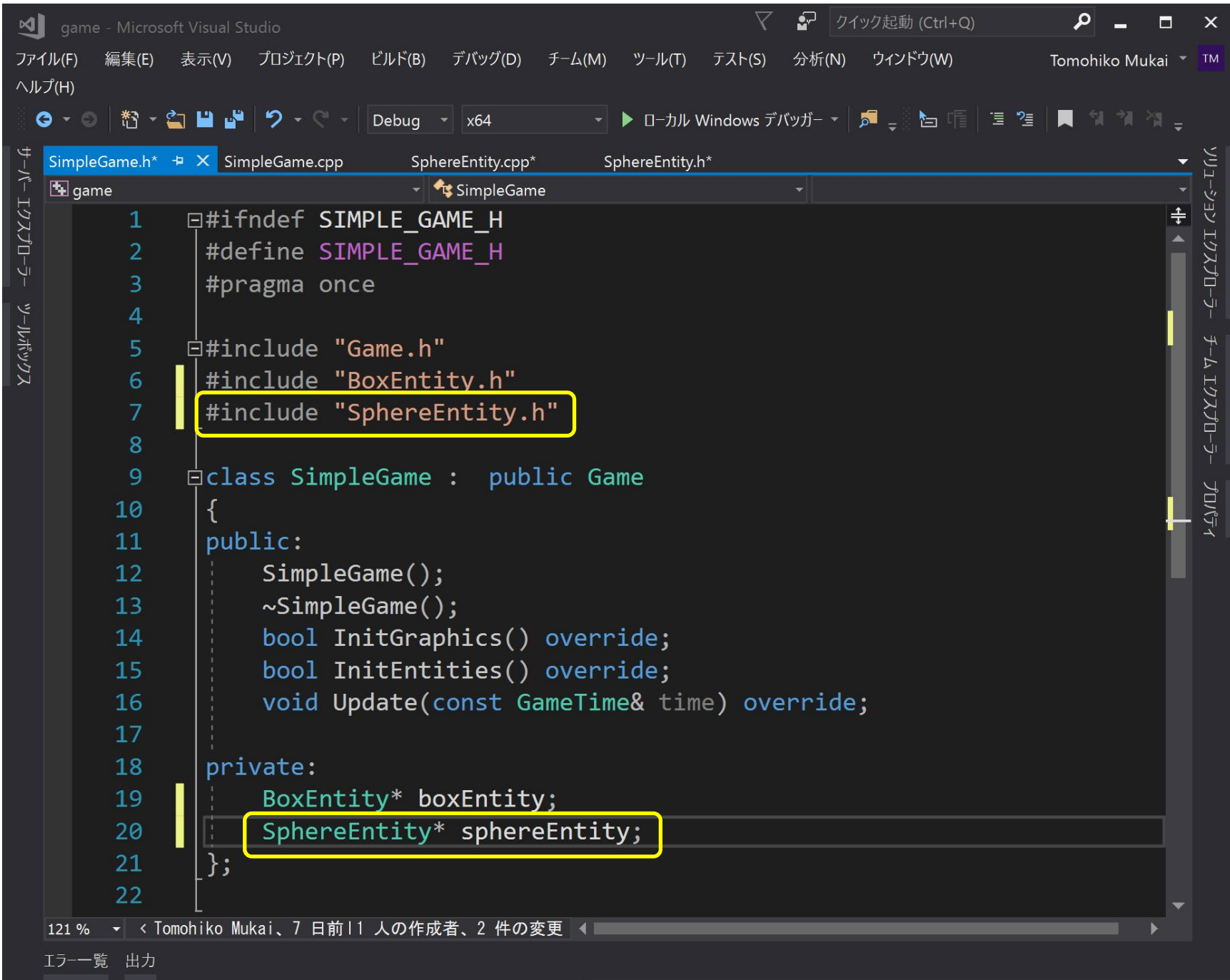
作業手順3

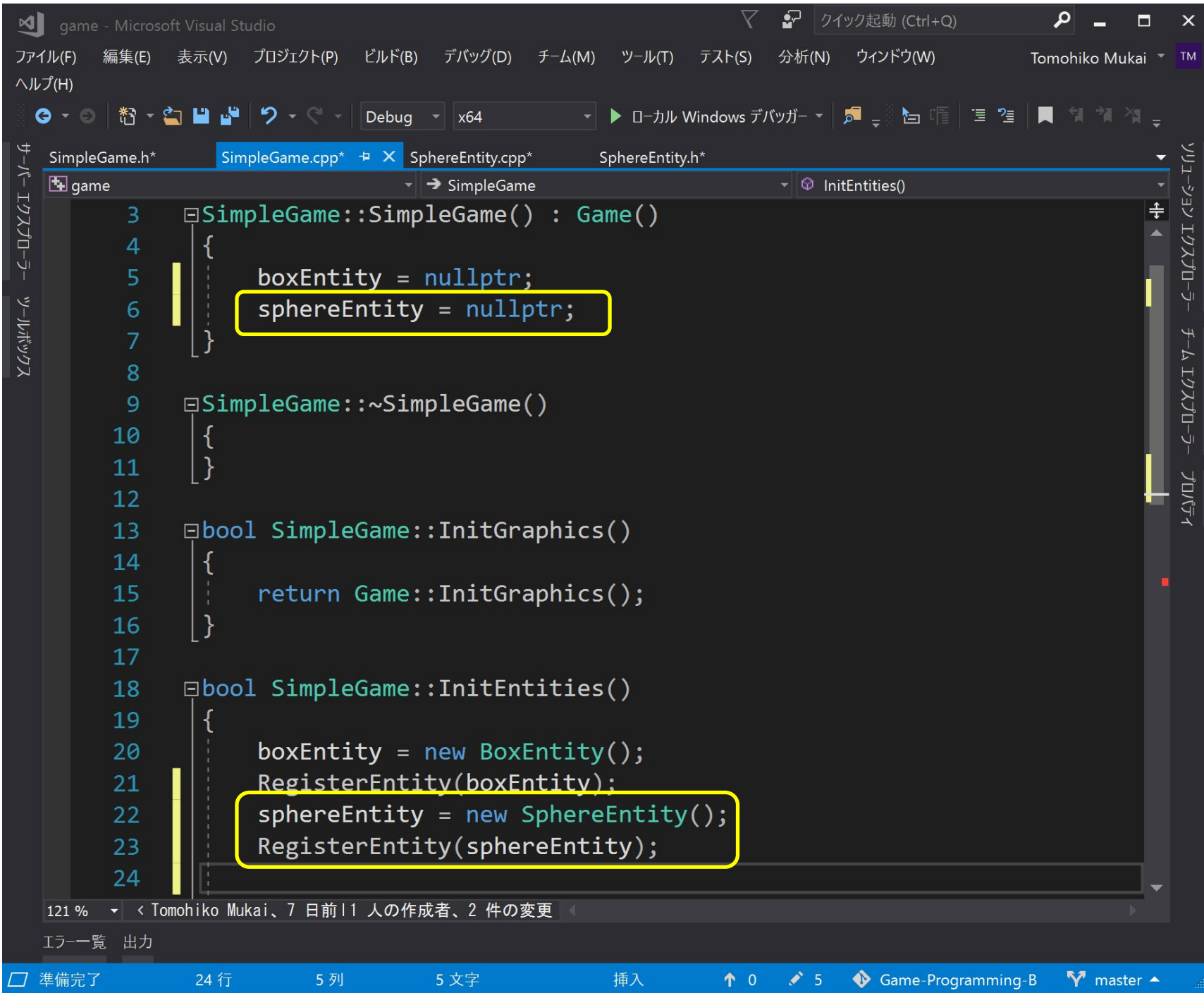
7. SimpleGame.h内

- SphereEntity.hをinclude
- SphereEntityへのポインタ型のメンバ変数を追加

8. SimpleGame.cpp内

- コンストラクタ内でメンバ変数を nullptr で初期化
- InitEntity内で、SphereEntityオブジェクトをnewしてメンバ変数に代入
- RegisterEntity関数を用いてエンティティをゲームに登録





エンティティごとに色を変える方法

1. 各エンティティクラス内、vModelDiffuse(モデルの色)を適宜変更する
 - さらにはSimpleGameクラスから色変更できるようにする = 各Entityに色変更用メンバ関数を追加してSimpleGameクラス内から操作
2. シェーダー内に色変更コードを書く
 - 少々アドバンスなやり方
 - どんなイベントが起きたらどんな色になるか、シェーダー内に記述する(前回の応用)

エンティティを動かす方法

1. 各Entityクラス内のUpdate関数に動作を記述する
 - メリット: 同じ動きをするエンティティの場合、楽
 - デメリット: 上記の逆
2. SimpleGameクラス内のUpdate関数に動作を記述する
 - メリット: エンティティ同士の間係を考慮できる
 - デメリット: エンティティの数が増えると大変

game - Microsoft Visual Studio

クイック起動 (Ctrl+Q)

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P) ビルド(B) デバッグ(D) チーム(M) ツール(T) テスト(S) 分析(N) ウィンドウ(W) Tomohiko Mukai TM

ヘルプ(H)

Debug x64 ローカル Windows デバッガー

SimpleGame.h SimpleGame.cpp* SphereEntity.cpp SphereEntity.h

game SimpleGame Update(const GameTime & time)

```
23 RegisterEntity(sphereEntity);
24
25 return Game::InitEntities();
26 }
27
28 void SimpleGame::Update(const GameTime& time)
29 {
30     if (IsKeyPressed(GLFW_KEY_Q))
31     {
32         exit(0);
33     }
34
35     glm::mat4 boxMotion;
36     boxMotion = glm::translate(boxMotion, glm::vec3(1.0, 0, 0));
37     boxEntity->SetLocalTransform(boxMotion);
38
39     Game::Update(time);
40 }
41
```

121 % < Tomohiko Mukai、7 日前 11 人の作成者、2 件の変更

エラー一覧 出力

準備完了 37 行 45 列 42 文字 BANDICAM